

学校法人中村産業学園
九州造形短期大学
機関別評価結果

平成 26 年 3 月 13 日
一般財団法人短期大学基準協会

九州造形短期大学の概要

設置者 学校法人 中村産業学園
理事長 一ノ瀬 秋久
学 長 黒岩 恭介
A L O 大久保 亨
開設年月日 昭和 43 年 4 月 1 日
所在地 福岡県福岡市東区松香台 2-3-2

設置学科及び入学定員（募集停止を除く）

学科	専攻	入学定員
造形芸術学科		200
	合計	200

専攻科及び入学定員（募集停止を除く）

なし

通信教育及び入学定員（募集停止を除く）

なし

機関別評価結果

九州造形短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 26 年 3 月 13 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 24 年 7 月 24 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

建学の精神は、「産学一如」として明確に示され、教育・研究活動においてもほぼ全学的に共有されている。建学の理念と、それに沿う教育目標や方法が教室、会議室、廊下、ホール等、至るところに掲げられている。教育においても、企業や地域と連携する「プロジェクト型教育」として具体化するなど、実技・実践に力を入れる在り方が建学の精神と結び付き、短期大学の特徴として生かされている。

教育目的・目標は、当該短期大学全体としても、学科及び専攻別にも示され、実践されている。「個性と自由な精神の尊重」、「教養重視」、「地域重視による実践的教育」、「少人数教育」が全体の方針である。これらは、学内でのポスターの掲示や、学生便覧、ウェブサイト等に明確に示されている。

自己点検・評価のための諸規程は整備され、自己点検・評価活動は毎年度実施され整っている。また、学生による授業評価や、平成 21 年度には大垣女子短期大学との相互評価を実施している。

学位授与の方針は学則に規定されるとともに、造形芸術領域の今日的状況を反映しており、社会的通用性もある。教育課程編成・実施の方針、入学者受け入れの方針も適切に定められ、公表されている。

教育にあっては、芸術系にふさわしい実技・実践に力を入れるなどの特色が表れており、明確な教育目標・方針の下に、展覧会・コンペティションへの出品・挑戦、地域活動・ボランティア活動の奨励・単位化を行っている。あわせて資格取得も奨励し、併設大学とも連携して指導に当たっており、クラス担任制・専攻別担任制・県別学生相談員制や多様なカウンセリング制度も導入している。これら多様な方法で少人数教育方式の実質化に努めるとともに、授業公開、卒業生・企業へのアンケート調査等を実施し、教育改善に取り組んでいる。また、教養教育も重視しているが、その在り方と実技・実践重視の在り方との調和・統合が望まれる。

学園全体として図書館、美術館、実習室、コンピュータ室に加え、学生寮、食堂、ホール等も設置され、キャンパス・アメニティは十分整備されている。

短期大学設置基準に基づく教員数及び教授数は充足し、教員組織は適正に整備されている。研究活動においては、専任教員は毎年度、研究費を受けるために学長へ個人研究計画書と報告書の提出を義務付けられている。また教育と同様に実践・実技を重視し、個展、展覧会への出品、コンペティションへの挑戦が積極的になされている。年1回「九州造形短期大学紀要」も刊行され、研究論文や作品が発表されている。

なお、教員及び職員の能力・創造性開発や資質の向上を目指すFD及びSD活動は、規程等は整備され、当該短期大学を含め学園全体として多様に取り組みが行われており、教職員の連携も良好である。

校地・校舎は、短期大学設置基準の規定を充足している。障がい者に対してのバリアフリー化は、十分に整備されており、キャンパスや校舎内では、車イス等でもスムーズに通行できるようにスロープやエレベーターを設置している。

技術的資源は充実し、パソコンでは主にデザイン系のアプリケーションを中心に教育が行われている。ハードウェア、ソフトウェアとも、専門業者と契約して定期的な更新も行われている。

財的資源については、当該短期大学部門は定員を満たしていないため消費収支で支出超過が続いているが、学校法人全体としては良好である。

理事会と評議員会は、理事小委員会を活用し機能している。理事会の下、法人の中期事業計画に基づき、毎年度、事業計画が策定されている。

学長のリーダーシップとして、教授会と拡大教授会は、それぞれ規程の整備、運営・議事録の整備を適切に行っている。また教授会の下に各種委員会・審議会を設置し、適切な大学運営を行っている。

監事は学校法人の業務及び財産の状況について適切に監査し、理事会、評議員会に監査報告書を作成し提出している。監事は理事会、監査法人、監査室と適切に連携している。内部監査制を導入して、決算等特定の時期のみでなく、日常的に監査活動を実施している。評議員会は、理事定数の2倍を超え、私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に運営されている。また、教育情報の公表及び財務情報の公開はウェブサイト等でなされている。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質保証を図り、短期大学の主体的な改革・改善を支援することにある。そのため、本協会では、短期大学評価基準に従って判定される前述の「機関別評価結果」や後述の「基準別評価結果」に加えて、当該短期大学の個性を尊重し、その向上・充実を図る観点から以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

本協会は当該短期大学の以下の事項について、高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らし、優れた成果をあげている試みや特長的な試みと考える。

基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

[テーマ A 建学の精神]

- 建学の精神「産学一如」が開学以来自信と誇りをもって掲げられ、教職員に加えて卒業生、地域で広く共有され、現在も全学のシンボルになっている。単に理念や観念にとどまらず、経済活動・企業や地域社会・地域活動団体との連携・協働を基本として、各現場の実践で重視されている。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

[テーマ A 教育課程]

- 美術デザイン分野の学習成果の査定において、卒業制作審査時に学外評価員制度を導入し、客観的な評価を行う努力を行っている。
- 教育課程は、ベーシックステージ、スキルアップステージ 1、スキルアップステージ 2、エキスパートステージと体系的・段階的な編成がなされており、13 に及ぶ多様な専攻とともに、学生に柔軟性に富んだ科目選択の機会を与え、少人数教育によって確実な専門・技術教育、また教養教育が行えるようにしている。

[テーマ B 学生支援]

- 1年次のプライマリーセミナーで履修指導や専攻選択のガイダンスを行い、履修や専攻の選択等の質問には常時対応している。
- 資格取得については、全学生に講座等の総合案内を配布して周知させている。講座等は、併設大学で開講されることが多いが、当該短期大学の学生も安価で受講できるようにしている。取得した資格によっては、単位認定できるものもある。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は以下に示す事項について、当該短期大学が改善を図り、その教育研究活動などの更なる向上・充実に努めることを期待する。なお、本欄の記載事項は、各基準の評価結果（合・否）と連動するものではない。

基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

[テーマ C 自己点検・評価]

- 自己点検・評価の報告書は毎年度まとめられ、内外にいつでも開示できる状態にある。ただし当該短期大学の報告書に「評価を改善につなげるシステムは不十分」とあるように、課題とされたことをその後いかに経営・財務、また教育・研究の実際に生かし、改善・改良を実現するかが課題である。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

[テーマ A 教育課程]

- 15週の授業のうち15週目に定期試験が組まれているため、1単位当たり15時間の授業時間が確保されていない科目が1科目あった。短期大学設置基準に従い、定期試験を含まない15時間の授業時間の確保が必要である。

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

[テーマ A 人的資源]

- 教員の年度ごとの業績報告書には、研究業績も作品も全く記載されていないものがあり、各教員が研究活動等へ積極的に取り組むことが望まれる。

[テーマ D 財的資源]

- 定員充足率が年々低くなっており、定員未充足の現状を改善するための適切な措置を講じられたい。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 基準別評価結果

以下に、各基準の評価結果（合・否）及び当該基準を合又は否と判定するに至った事由を示す。

基準	評価結果
基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果	合
基準Ⅱ 教育課程と学生支援	合
基準Ⅲ 教育資源と財的資源	合
基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス	合

各基準の評価

基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

建学の精神「産学一如」は、全学に浸透し、共有されている。創立時の昭和35年頃は、まだ産学協働・連携は日本の大学では一般的には受容されていなかったが、当該学校法人では「産学一如」がその創立以来の精神であり、学生便覧等に明示されるだけでなく、学内の至るところに建学の精神のポスターが貼り出されている。さらに建学の精神は、理念としてのみでなく、経営・管理の実践や教育・研究の現場でも、また、教育目的・目標との一体性や教育方法・存り方での応用・実践としても、受容され、活用されている。経営では理事長以下、学外から参加している理事の多くが九州地方の産業界・実業界で活躍した人たちである。

このように、教育の現場で実技・実践重視が打ち出されているのは、芸術・造形という領域の特性であるとともに、「産学一如」の建学の精神に基づくものでもある。また、建学の精神の「産学一如」の「産」は、単に産業・実業（界）や経済・経済活動のみを指すのではなく、広く現代社会全体を指すとされている。当該短期大学はこの建学の精神の下、地元の企業や地域と密接に結び付いており、そのことが企業や経済活動の現場や地域活動の現場の協力なしには成り立たない「プロジェクト型教育」や、ボランティア活動の単位化等による地域活動・貢献の重視・推奨にもつながっている。

自己点検・評価報告書は毎年度まとめられ、内外にいつでも開示できる状態にある。ただし当該短期大学の報告書に「評価を改善につなげるシステムは不十分」とあるように、課題とされたことをその後いかに経営・財務、また教育・研究の実際に生かし、改善・改良を実現するかが課題である。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

教育目標や方針は、短期大学全体としても、また学科及び専攻別にも明示されている。学位授与の方針は学則に規定されるとともに、造形芸術領域の今日的状況を反映しており、社会的通用性もある。教育課程編成・実施の方針、入学者受け入れの方針も適切に定められ、公表されている。

教育課程は、基礎・教養教育から、キャリア・専門教育へと進むよう体系化されており、分かりやすい。履修指導は適切に行われ、学習成果や作品に対する評価・測定、

あるいは卒業評価も、学生の納得が得られるように可能な限り客観化されている。なお、15週の授業のうち15週目に定期試験が組まれているため、1単位当たり15時間の授業時間が確保されていない科目が1科目あった。短期大学設置基準に従い、定期試験を含まない15時間の授業時間の確保が必要である。

学生に対する学習・生活支援は適切であり、入学後の基礎教育から卒業研究までよく配慮されている。教育・学習における実技・実践を重視し、展覧会・コンペティションへの応募や地域活動・ボランティア活動を推奨している。多様なカウンセリング制度、四年制大学への編入・就職等の進路を支援するキャリア支援委員会等の活動、指導体制が整えられている。

特に少人数制を活用してクラス担任制、専攻別担任制、カウンセリング制等の多様な仕組みをつくって一人ひとりの学生に目が届くよう工夫されている。女子学生には専用室・専用寮を設けるなど学習・生活環境の整備に配慮している。また、卒業生とその就職先の企業に対してアンケートを行い、教育改善及び学生指導に生かしている。

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

短期大学設置基準に基づく教員数及び教授数は充足し、教員組織は適正に整備されている。当該短期大学の教員体制及び教育活動は適切にシステム化され、機能しており、また職員の事務組織は規程が整備され、実践的にも機能している。しかしながら教職員の負担が過度にならないように配慮し、実態に合わせた増員等の工夫が望まれる。教員・教授会と職員・事務組織の連携・協力も十分にとれている。FD・SD活動も制度化され、継続性・質的向上に役立っている。

専任教員は毎年度、事前に学長へ個人研究計画書を提出することになっており、これまで全教員が対応している。今後は、この取り組みが更に科学研究費補助金や多様な民間財団等の助成する外部資金の獲得への挑戦・成果の拡大につながるよう努められたい。また、自己点検・評価報告書にもあるように研究業績・作品がない教員がおり、改善が望まれる。

校地・校舎は、短期大学設置基準の規定を充足している。障がい者に対してのバリアフリー化は、十分に整備されており、キャンパスや校舎内では、車イス等でもスムーズに通行できるようにスロープやエレベーターを設置している。

教育研究用の施設設備は整備されている。図書館等では郷土文献や資料の収集等の個性を出すために積極的に活動しており、さらに学生は、併設大学の図書館、美術館等も利用できる。またコンピュータ等の設備・機器類も整備されている。

定員充足率が年々低くなっており、定員未充足の現状を改善するための適切な措置が望まれる。学校法人全体では財政は良好なため、更にその強固な財政を活用して短期大学部門の改革・改善に全学をあげて取り組まれたい。

同窓会は、学生を支援するなど積極的な活動を行っており、当該短期大学にも協力的である。

基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス

理事会は、理事小委員会を設定し、迅速な対応を可能にしている。理事会において、学校法人の中期事業計画に基づき、毎年度、事業計画が策定されている。予算は、予算委員会において予算編成基本方針に基づき策定されている。いずれも理事会の承認を経て、各部署に通知されている。また、予算の執行状況や資金運用等の財政実態については、月ごとに担当理事・理事長に報告することをルール化している。

教授のみで構成する教授会の他、専任教員全員参加の拡大教授会を設置することで、教育研究活動全体の方向性、課題・問題点、状況・情報等の共有化を図り、全教員の連携・一体化、学事の質的向上や円滑・順調な運営を心がけている。二つの教授会は、学長のリーダーシップの下、それぞれ規程の整備、運営、議事録の整備等が適切に行われている。

評議員会は、理事定数の2倍を超え、私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に運営されている。監事は学校法人の業務及び財産の状況について適切に監査し、理事会、評議員会に監査報告書を作成し提出している。また、教育情報の公表及び財務情報の公開はウェブサイト等でなされている。

選択的評価結果

本協会は、短期大学の個性を伸長させることを目的として、「教養教育の取り組み」、「職業教育の取り組み」、「地域貢献の取り組み」という三つの選択的評価基準を設けている。これらの三つの取り組みは 4 基準にも含まれているが、各短期大学の取り組みの特色がより鮮明になるよう、4 基準とは別に設定した。

選択的評価は個々の短期大学の希望に応じて実施し、課外活動も含め、それぞれの独自性が一層発揮されるよう当該短期大学の取り組みの達成状況等について評価を行った。

教養教育の取り組みについて

総評

当該短期大学は、教養教育を重視し、教育方針等にも明確に掲げている。教養教育の目的・目標、そしてその内容や方法も分かりやすく示されている。実施体制にも問題はない。

当該短期大学の教養教育は、社会人になるための教養として位置付けがなされており、言語・語学、文化、キャリアにつながる科目が主に取り上げられている。

また、教養教育は、社会人や学生ばかりでなく、芸術を本務とする実践家・専門家にも必要なものである。つまり専門・専攻とは関係なく存在するのではなく、つながっている面もある。それだけに専門・専攻と教養科目は、一体的に統合してとらえる理念・視点・内容も必要である。

当該短期大学の特色が表れている取り組み

- 当該短期大学では教育方針に、教養教育の重視をその一つに掲げ、取り組んでいる。また芸術的成果、そのために重視されている実技・実践やものづくりの教育には、教養教育に関わるコミュニケーション能力が不可欠と理解されている。オリジナルな作品は、閉じこもった一人のみで完成され、意味を持つに至るのではなく、他に伝える「表現する能力」が伴って高い評価を得、確かな成果になるという認識である。このような認識の下で、科目群の一つとして言語カリキュラムが重視されている。

職業教育の取り組みについて

総評

当該短期大学は教育・学習期間が 2 年間と短いので、1 年次から基礎ゼミナールやインターンシップのような専門的教育・学習を導入しており、他方で、そう遠くない卒業に備えて、就職・職業教育も早くから重視し、実施している。職業教育の評価や

点検・改善にも工夫を凝らしている。一人ひとりの学生が、自分の将来への希望や適性の検証・確認を得て、自信をもって将来設計や具体的な進路を描き、目標を実現できるように配慮している。

授業・講習の他、キャリア支援委員会の設置、キャリアカウンセリング制の導入等を行い、職業教育や就職支援を強化している。それに合わせて就職や職業教育に精通する教員も育てている。

教育課程でも、職業教育を重視し、1年次からキャリア・プランニング、キャリア研究、職場体験も実施するインターンシップ演習等を講義科目に加えている。

将来や職業にもつながる資格取得では、全学生に各種講座を啓蒙・宣伝・公開し、安価に実施・提供している。また、その効果をあげるため表彰制度を設けて資格取得を奨励している。

卒業後の同窓生とのつながりも良好である。同窓会活動は総会、機関誌の発行等も積極的で、当該短期大学ともよく連携している。また、卒業生やその就職先企業へのアンケート等の実施で、卒業生や企業からも信頼を得ている。

当該短期大学の特色が表れている取り組み

- 当該短期大学は、創設時から、地元経済界・財界と連携しつつ運営、教育に当たってきたため、経済活動や企業からの支援や専門家の支援・協力を受けている。さらに芸術領域なので各フィールド・専攻ごとに地元の専門芸術家の支援・協力も得ている。そのような協力関係の下、適切な実技・実践指導を行うとともに、将来につながる就職・職業教育も実施している。

地域貢献の取り組みについて

総評

当該短期大学では、公開講座、生涯教育講座等は急速に増えつつある。そのことが建学の精神にもつながることから、当該短期大学の特徴に押し上げる程にまで展開されている。当該短期大学の立地がよく、交通機関によるアクセスも便利であり、その上、近くに商店街・住宅街もあるので、条件的にも恵まれ、公開講座や生涯教育講座は更に拡大・拡充できる余地がある。

地域活動やボランティア活動は、授業科目として積極的に取り上げるだけでなく、地域のクリーン大作戦、河川の清掃等にみられるように、任意・自由参加の課外活動としても実践され、広がっている。

特に教育・授業で地域の諸団体と連携する「プロジェクト型教育」を重視しているため、地域社会の行政、商工業、教育機関、文化団体、社会福祉団体等との結び付きを強めている。芸術・造形分野はまちづくり・地域の活性化にも貢献しやすい領域であり、それらの取り組みを通して当該短期大学のレベルアップ、評価や水準の向上に大きく貢献する可能性も持っている。

当該短期大学の特色が表れている取り組み

- 当該短期大学は、ボランティア活動を重視し、単位化している。当該短期大学の特色である「プロジェクト型教育」そのものが地域の企業、NPO・公益法人・社会福祉法人、町内会等と連携、協力を得て成り立つもので、ボランティアの精神につながっている。地域活動・地域貢献が理念やかけ声だけでなく、学生の主体的な活動として教育・授業として実践されている。